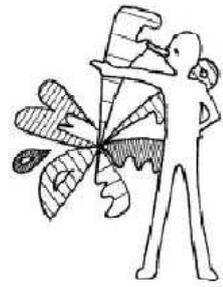


Freedom



こうこうせい じんけんこうほうし フリーダム だい ごう
高校生の人権広報誌 “Freedom” 第18号

ねん がつ にちはっこう
2015年3月31日発行

へんしゅう フリーダム へんしゅう
編集 “Freedom” 編集スタッフ

はっ こう な ら けんこうとうがっこうじんけんきょういくけんきゅうかい
発行 奈良県高等学校人権教育研究会

まいつき にち じんけん たし ひ
毎月11日は「人権を確かめあう日」

ひがし にほんだいしんさい げんぱつじこ ごううとう ひさい
東日本大震災、原発事故、豪雨等により被災された

かたがた こころ みま もう あ
方々に、心よりお見舞い申し上げます。



ぜんかいよこく かしばこうこう あおはにかい のうぎょうたいけん さんか なが ま
前回予告しました香芝高校の「青葉仁会の農業体験に参加して」…長らくお待
たせしました！でもまだ、複数の掲載待ち原稿があります…。今回は、定時制
こうこう なかま おも とうこう こんかい ていじせい
高校の仲間から、思いのこもった投稿をいただきました。また、今年度もスタッ
きぼうしゃ ぼしゅう
フ希望者を募集します!!

あおはにかい のうぎょうたいけん さんか
青葉仁会の農業体験に参加して

かしばこうこう ぶ
香芝高校 ボランティア部

ぼく ぶ いっさくねん ならしそま かわ あおはにかい こうりゅう
僕たちボランティア部は、一昨年から奈良市柚ノ川にある青葉仁会と交流し
ています。昨年、8月6日に3人で施設を訪問しました。こちらの施設は、



「障害を持つ方々が様々な仕事やここで
の暮らし、余暇を通じて一人一人豊かな生
活を過ごしていくためにサポートする」と
いう理念のもと活動している社会福祉法人
です。今回僕たちが体験させていただいた
のは、ブルーベリーの収穫のお手伝いで

す。こちらでは3年ほど前から仕事のひとつとしてブルーベリーを栽培しています。
2時間ほど収穫作業をしましたが、夏ということもありとても暑く、手が止ま
ってしまうことも時々ありました。その時にその農園で働いている障害者の
方と野球の話などをして盛り上がりました。また、その作業中に、障害を持
っている方々はどれだけ大変だろうと思ったりしました。しかし、青葉仁会のス
タッフの方は、障害を持っていても可能性はたくさんあるとおっしゃっていま
した。事実、この施設では農業だけでなく、陶芸や絵画など、多種多様な仕事
をされている方がいます。特に絵では、スイスや東京の展覧会に出展している
方もおられます。

また、収穫のお手伝いの前に、施設の案内もしてもらいました。ここでは、部屋
は個室で、洗濯も洗える人は自分で洗っていると聞きました。案内をしていただ
く中で、スタッフの方は、このようなことを話してくださいました。「戦後に国
の政策で作られた施設では、障害者は人との関わりが苦手で、人と違う価値観
を持ち、健常者とは関わりづらいと考えられていたため、健常者が障害者に
対して強い口調でしかったりすることもあった。さらにその当時は、お風呂は
3日に1回、部屋も二人部屋以上が当たり前であった。こういったことはおか
しくないか。」と。この話を聞いて今はどうなっているのか調べてみると少し
ずつ改善されているようですが、まだまだな所もあります。僕は改めて、世の中
は障害者にとって優しくないのかなと思いました。障害者も一人の人間なので
す。スタッフの方々や家族の人たちが頑張っていたとしても、周囲の協力が
なければ、障害を持つ方々が本当の意味で豊かな人生を送れたとは言えないし、
さらに、サポートをしている人たちも幸せに生
きていけないと感じました。

この施設は障害者に配慮した工夫がなされ
ていて、さらに色々な仕事(※)を考え出し
て将来のことについてもきちんと考えていま



す。そして、^{しょうがいしゃ}障害者と^{けんじょうしゃ}健全者が^{いっしょ}一緒に暮らしていく中で、^なお互いの「^{かべ}壁」がなくなつて、^{しょうがいしゃ}障害者を^{かんし}監視するのでなく、^{ひとり}一人の人として、^{せつ}接して^{みまも}見守つて^{すご}過ごしているように^{かん}感じました。だから^{ぼくじしん}僕自身も^{いごち}居心地よく^{かん}感じました。障害を^{しょうがい}持つ^も方々^{かたがたぜんいん}全員と^し自然に^{せつ}接することは^{むずか}難しいのかもしれないけれども、^{すこ}少しでも^{けん}健全者と^{しょうがいしゃ}障害者の「^{かべ}壁」がなくなればいいなと思います。

かしばこうこう ときわ けんた
(香芝高校 常盤 健太)

(※) ^{いろいろ}色々な^{しごと}仕事…^{せいか}レストラン「^{せい}ハーブ^{もっこう}クラブ」、^{せい}製菓・^{せい}製パン、^{もっこう}木工、^{もっこう}クラブ
^{かん}ト館、^{かん}セントラル^{びょうが}キッチン、^{びょうが}描画、^{ねんど}ねんど、^{こうさく}工作、^{ようもう}羊毛^{しぜんがっこう}クラフト、^{しぜんがっこう}自然学校、
^{デリカテッセン}デリカテッセン「^{ソラ}イーハトーヴ^{ソラ}S o r a」、^{カフェ}カフェ&^{ベーカリー}ベーカリー
^{クラムボン}「^{クラムボン}C r a m b o n」など^{たすう}多数

高解研 研修・交流会 参加体験記

第2回の高解研 研修・交流会を終えて

^{こんねん}今年度^{だい}第2回の高解研^{けんしゅう}研修・^{こうりゅうかい}交流会は、^{がつ}2月1日(日)、^{さくらい}桜井市^{しちゅう}中央^{こうみんかん}公民館
^{おこな}で行われました。今回は^{こんかい}東日本^{ひがし}大^{ほんだい}震災の^{ひさいち}被災地を^{ぶたい}舞台にした^{えい}ファンタジー^{えい}映画
『^{いし}ふしぎな^{いし}石』を^{しちょう}視聴し、^{とうほく}東北の^{きょうど}郷土^{りょうり}料理^{じる}ひつつみ^た汁を^あ食べた^{かくこう}後、^{かんそう}各校の^{かんそう}感想
や^{じんけん}人権についての^{かつどう}活動などを^な述べる、という^{こんかい}流れでした。今回も^{ゆういぎ}有意義な^{とき}ときを
^す過ごすことができました！

^{えい}映画は、まず^{しんさい}震災の^{しんぶん}ときに^みニュースや^{つなみ}新聞で^{えいぞう}見た^{はじ}津波の^{はじ}映像から^{はじ}始まりました。
^{ひとびと}人々の^{さけ}叫び^{ごえ}声が^き聞こえ、^{つなみ}津波という^{おお}大きな^{かいぶつ}怪物は^まあつという^ま間に^{ひと}あらゆる^{もの}人や物
を^の飲み^こ込んで^{わたし}いって^{わたし}しまいました…。私は、もし^{じぶん}自分が^{じょうきょう}そんな^{じょうきょう}状況になつたら
どうなるのかという^{きょうふ}恐怖感と、この^{じょうきょう}状況に^あ遭つた^{かたがた}方々は^{せいしんてき}精神的に^{つら}辛いので
はないかという^{しんぱい}心配、そして^ごその^{じょうきょう}後の^{じょうきょう}状況には^ごどの
^{へんか}んな^{へんか}変化があつたのかという^{こうきしん}好奇心が^い入り^ま混じつた
^{ふくざつ}複雑な^{しんじょう}心情で^{えい}映画に^み見入っていました。

^{ぶたい}舞台は^{しょうがっこう}小学校に移り、その^{しょうがっこう}小学校に^{かよ}通つていた
^{にん}4人の^{しょうがくせい}小学生が^{あつ}集まってきました。校舎の中は^{こうしゃ}ほぼ^{なか}





震災直前の様子が残っており、まるでそこだけ時間が止まっているようでした。4人はそれぞれの思いを話しつつ校舎を巡り、校庭に出ました。そこでふしぎな暗号文が書かれた革布を見つけます。その暗号文は「5つの石のかけらを集めるように」と言っているようでした。

そこから4人の石探しが始まります。石を探す際に出会う大人たちからいろいろな話を聞いたり、震災に関わるいろいろな物を目にしたり…そして5つの石のかけらを合わせたら何かが起こる…！

映画『ふしぎな石』は、「地球のステージ」代表の桑山紀彦さんが監督されたもので、出演された方は皆、東日本大震災で被災された方だそうです。それだけに映画の中のメッセージには、真に迫ったものを感じました。また、私は被災して辛い思いをしているのに、笑顔でいられて会話もできるなんてすごいと思いました。私とその状況に遭ったら、おそらく私から笑顔が消え、外に出ることでさえ嫌になると思います。辛いのを忘れることができたらいいのにと、しょっちゅうSNSなどに書き込み続けてしまうくらい病んでしまいそうで、本気で怖いのです。それなのに外に出て会話ができるのは、普通の状況であればごく当たり前の風景ですが、あんなことがあった後となると、とても勇気があることだと感じました。

さて、お昼時となり、皆で協力してひっつきみ汁を作りました。小麦粉で作った生地をちぎってはのばしちぎってはのばし…野菜や鶏肉と煮込んでできあがり！ やっぱり寒い冬には温かいものが一番いい。体の芯から温まり、お腹いっぱいになります。それだけでなく、私はこんなことも感じました。「ひっつきみ汁＝ひっつき汁なのでは？」と。人と人との縁を結び、笑顔が連鎖している楽しい時間を過ごせたからです！

その後はゆっくりしつつ、映画の感想を述べたり、各校の活動を紹介したり、と楽しく交流をしました。

今回も新たな発見があったり、なんと中学時代の友達と久々に会えたりと、嬉しいことが満載でした。今回も高解研に参加してよかった。来年度も欠かさず参加しよう！と思いました！

ならだいがくふぞくこうこう よしむら たくき
(奈良大学附属高校 吉村 拓紀)

※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。当日は7校から20名の参加がありました。

【深雪の日記#2】 生きているって素晴らしい

御幸橋 深雪

前回、「いじめの悪循環」についてのコラムを書かせていただきました。いじめから逃げてばかりいてはダメ。周りの協力によって、いじめの悪循環から脱出できるという内容でした。

今回は、「生きているって素晴らしい」と考えるところの私の持論をまとめます。

今年、戦後70年の年を迎えます。私は小学校の修学旅行で広島を訪れ、そこで戦争体験者の話を聞く機会がありました。その後、平和記念資料館の展示を見たとき、戦争を体験された方の話と重なり、とても悲惨なことが過去に日本でもあったのだと初めて知りました。今世界に目を向けると、テロや反乱によって、たくさんの人が尊い命を落とされています。そのようなニュースを見るたびに心が傷ついてしまいます。昨年暮れ、私と同世代のマララさんがノーベル平和賞を受賞されました。彼女が「少女が教育を受ける権利」を主張し、活動したことが認められたのです。しかし、マララさんはその活動を始めた際、彼女の主張を認めない人々によって命を狙われることにもなりました。これは大きな意味で「いじめ」と同じです。もし彼女が、彼女の意見に反対する人々の迫害を恐れて、主張を覆してしまったら、少女たちに教育を受ける権利は保障されないままだったでしょう。

いじめは戦争をすることと同じように、相手の立場、心、体を傷つけるものです。それを放っておくと、いつまでも傷が治らず、命にも関わってしまいます。これは大きな問題です。だからこそ私たちは、いじめについて考えなければなりません。

戦争を体験し、生き延びた人たちは「生かされた命」という言葉をよく使われました。それは共に活動した仲間や友人が目の前で命を落とす瞬間を目の当たりにして、発せられた心の底からの言葉だったのでしょうか。だからこそ生存者は、『生きている意味』を真剣に考えたのです。いじめられる人、いじめる人共々『生きている意味』を真剣に考えてみれば、『生きているって、素晴らしい』と感じられるのではないのでしょうか。

私は、いじめは世界で起こっているテロや反乱と同質のものではないかと思ひ、今回のコラムを書いてみました。皆さんも一度、いじめと戦争の共通点を考えてみてください。

今回はここまでです。御清覧有り難う御座います。

奈良県高等学校 定時制・通信制生徒 生活体験発表会

『定時制高校』—この言葉を聞いてあなたはどんな風景を想像しますか。私は34才の時に奈良朱雀高校定時制に入学しました。そんな定時制には様々な環境から来た生徒たちが通っています。そして一人一人がそれぞれの思いを持っています。

定時制・通信制(※)には毎年秋に「奈良県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表会」というものがあり、定時制・通信制に通う生徒が『過去や現在』の体験、そこから学んだことを発表するものです。各学校には16才から70才まで幅広い生徒がおり、各学校の代表が集まり発表しあうことでお互いを刺激しあい励ましあっています。今年は、大和中央高校で開催され、奈良朱雀・山辺高校山添分校・大和中央(定・通)・五條・五條高校賀名生分校・畝傍・天理(二部)の8校から11名が熱い思いをそれぞれ発表しました。

私たちは、定通制高校が存在したから自分の居場所を見つけることができました。定通制高校がある限り誰もがチャレンジできるのです。自分がスタートしたいと思ったらスタートできる。そんな場所がここである事を少しでもわかってもらいたいなと思っています。私は38歳で無事卒業できました。皆さんの

「定時制高校」へのイメージが少しでも変わってくれたらうれしいです。
(奈良朱雀高校定時制課程 吉田 一成)

※通信制課程とは、全日制や定時制とは別に、毎日学校へ通えない人が高校教育を受けられるようにと設けられた課程で、学習は、スクーリング（学校における面接指導）とレポート作成が中心になっています。

◆今回の誌面は、2014年度の編集スタッフ（奈良情報商業高校・香芝高校・奈良大学附属高校の3校6名）が作りました。

高校生の人権広報誌 “Freedom” 第18号（2015年3月31日発行）

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1 奈良県人権センター内

TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568

E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

HP <http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/>

- ※ ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。
- ※ 本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。（「高人教」で検索してください）
- ※ 本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。